

## 第 13 回市民展作品解説

2021、5、5 渡邊 晴雄

◎ 今回の 2 点の作品は、シャッターチャンス に焦点を絞って選定した。

### 1、李鵬、羽田 会談



2002、1、李鵬国务院総理・羽田元総理の会談が北京、人民大会堂で行われた。当時羽田さんは、日中青年研修協会の会長で、私は理事を務めていて同席した。会談の始まる前に、撮影をして良いですか？と直接李鵬さんに尋ねたら、予想外の快諾が得られて、撮影出来た貴重な 1 枚である。会談後は、奥様の朱琳さんに握手されて退場した。

李鵬さんは、天安門事件では民主化運動への強硬路線を主張した保守派の代表格だったが周恩来の養子だったからなのか、日本に対しては友好的だった。

その頃は 胡錦濤時代、小渕基金が制定され、日中共同での植林活動が黄砂対策として開始されていた。翌日、中南海で唐家璇・羽田会談 が行われたが、撮影許可は出なかった。

### 2、澁谷を撮る巨匠 William Klein



澁谷駅前の狭い広場での事、猛烈なスピードで走って来る車椅子の上から、写真を撮りまくっている老人に遭遇した。車椅子が止まった所で、車椅子を押していた人に私は聞いた。この方は写真家ですか？ 彼は答えた。“知らないの？ 彼は **William Klein** だよ。”老人は私に言った。“君もカメラを持っているね！ 今回は 2 日間、日本の、澁谷と新宿を撮るんだよ。”

私は、写真を撮って良いか聞いたら、大きく頷いてくれた。

そこで数枚スナップを撮らせてもらった。

帰宅して 早速 **William Klein** を調べた。驚いた事に彼は有名な写真家、実業家で年齢は 90 才。彼の写真集は、30 万円もの高価で売られているとの事。

彼は 30 年間日本に来ていなかったが、私は千載一遇の貴重なシャッターチャンスに偶然恵まれたわけで、神に感謝している。

この瞬間に、カメラを持っていて本当に良かった。